

さぬきの輪

「がみざ、お腹すいた〜!」

TIMES 9



Illustrator
イラストレーター



Graphic designer
グラフィックデザイナー



discover talent

それぞれの思い描いた活動の中で
キラリと光る才能を見せてくれる
地域おこし協力隊

今までやってきたこと
これからやり続けたいこと

自分らしく暮らしていくために

人と地域をつなぐ協力隊の
お仕事スキルを紹介します。

さぬきの輪 TIMES 9



何気なく行った旅先でローカルな暮らしぶりや住民との出会いで、その地域をもっと好きになっていたことはありませんか？単なる観光としての場所ではなく、人やコトに惹かれてまた訪れたいくなる。そんな出会いは、私たちに大きな喜びと豊かな気持ちをもたらしてくれます。

今回はガイドブックには載っていない、香川県の魅力に触れる1冊となっています。小豆島町のNPO法人Totieが企画・運営する移住ツアーに同行し、実際にその土地に住んでいるかのように旅する特別な1日を体験してきました。

「コトコト、さぬき味」では、近くに住む島民のみならず、たまたま島を旅している旅行者と小さなきっかけで心を通わせ、そこから何度となく旅人との交流が続く、不思議なお家を訪ねました。どんな時も変わらず迎え入れてくれ、美味しい手料理ですぐに皆んなを笑顔にするお母さん。誰もが気軽に作れ、すぐに真似して作りたくなるメニューを紹介しています。

協力隊の活動紹介は、芸術祭で賑わった女木島で活動する隊員。冬の閑散期の集客は島にとって大きな課題です。地域おこし協力隊ならではの得意分野を生かしたユニークなアイデアで新たな冬の島時間が誕生しました。

目次

- 3 discover talent
- 6 香川に関わるを作る人
- 8 女木島地域おこし協力隊
藤村 佳朋
- 10 コトコト、さぬき味
[地域の方から教わる郷土料理]
- 12 協力隊のオススメ香川歩き
- 14 さぬきの輪の活動
- 15 地域おこし協力隊の活動場所

Graphic designer

グラフィックデザイナー

立屋 一美さん

Kazumi Tateya

山形県出身。土庄町地域おこし協力隊として活動。地元の芸大を卒業後、東京でWEBデザイナーを5年間経験し、その後全国展開のアウトドアメーカーでの勤務を経て、2018年8月から小豆島で島暮らしを始める。小豆島暮らしも悪くない!と思っていた矢先に土庄町で豊島の観光振興での地域おこし協力隊の募集を見て応募。現在に至る。

【問い合わせ先】

- <https://www.facebook.com/tateya.kazumi>
- tono.tateya@gmail.com



アウトドア好きな、みんなのデザイナー

アウトドアメーカーに勤務していた頃、いろいろな土地の自然の中へ仕事仲間と遊びに出掛けていました。その経験が今の私を形作っていると言っても過言ではありません。

アウトドアと同じくらい、モノを作ることも好きでした。ただ一人で形にするモノより、信頼関係の中で協力して生まれるモノに重きを置いています。だからこそこの(みんなのデザイナー)。独りよがりでは意味がない!これが私の信念でもあります。

今でも時々山登りをするのは、閃きが生まれやすく、今までの生き方を見つめ直して今後について考えることができるから。不思議と頭の中を整理できる大切な時間になっています。仲間達と一緒に登れば、より信頼関係が深まることにも繋がります。

今後もライフワークとして山登りを続けていきます。その一環として、みんなが楽しめるアウトドア環境も併せて作ってきたい!信頼できる仲間の協力を得ながら、魅力ある新たな場所を構築し、自らの手で発信ツールを作ることで、土庄町のこれからの観光振興に繋がっていければと思っています。



豆いち
エイドステーションマップ



豆いち
ノベルティタオル



石の島クルージングツアー
募集チラシ



policy

- 一人では何もできない! という気持ちと感謝を忘れないこと
- 行動を共にする人の気持ちを常に考えること、迷惑をかけないこと
- 明るく前向きに臨むこと



Illustrator

イラストレーター

相曽 晴香さん

Haruka Aiso

静岡県出身。美術大学を卒業後、こどもの体験施設で企画・運営・デザインを担当。2018年から高松市塩江町の地域おこし協力隊に就任。地域の人のコミュニケーションを通して新しいおもやげを生み出す活動や、造形・ものづくりのワークショップを開催し居場所作りを試みている。業務の傍ら絵を描き、紙媒体のデザインをする。

【問い合わせ先】

- ruponpon.wixsite.com/mysite
- ruponpon@gmail.com



一人一人が、表現者

イラストレーションは特別なメディアであると思っています。イラストレーションと一言で言っても、文化圏の異なる国では意味の捉え方が違います。

一枚の絵を、アート作品として捉えられる場合。絵本や本の挿絵、または、広告の間を埋めるようなものと捉えられることもあります。最近の日本ではマンガやアニメ、ゲームなどに使われるイメージが強いかもしれません。イラストレーションはそういった性質上、多様な形に姿を変えて世の中へ広がります。

日本では商業的に扱われやすいイラストレーションですが、描き手の内面をどうしても映してしまうところも魅力の一つです。その人の生まれ育った環境、幼児期の経験、大切に想っていること、心のしこりとして残っていること、訓練や経験ではカバーできない滲みでできた表現に私は面白さを感じます。

そして、こうした表現が地域おこしとつながるとことで、面白いことができないかと思っています。小さなこどもからお年寄りまで、一人一人にしかできない表現が何らかの形に姿を変えて、想いを伝えられたら素敵です。消費されるだけでは終わらない、特別な形になって、町の魅力を伝えていければと思っています。

今後も、人が表現したいと思う気持ちを解放するお手伝いをしながら、自分自身の表現活動にも繋げていきたいと思っています。



policy

- 偶然性と必然性
- 解放と編集
- 相手と自分の中の、小さな人とよく向き合う





を引き継いだ1泊2日の「小豆島移住ガイドツアー」という形態と、新しく企画した「小豆島人になってみるツアー」の2種類行いました。前者のターゲットは地方移住を考え始めた方とし、内容も空き家見学や仕事に関する事、先輩移住者との交流など、全般的な内容としています。後者のツアー（今回同行したツアー）は、移住する際の決め手になる「人」との交流をメインとして企画をしました。地方移住検討から実際に転入するまでの期間は、平均すると1年程度と言われる中で、2018年度開催においては、私たちが把握しているだけでツアー参加者の2割ほど



香川県
小豆島町

大塚 一步さん

Ippo Otsuka

はじまりは、一枚の移住ツアーのカードに書いてあったこの言葉。

「この日だけ、島の人になってみよう」

なんとなく移住に踏み込めない人たちにとって、軽やかにハードルを飛び越えさせてくれる魔法のような言葉でした。いつもと違う時間を旅する、何気ない日常と人々を繋ぐ旅。移住ツアーで出会った人たちとの時間を想い、あの時お世話になったあの人にまた会いに行く。そんな新たな関わりが生まれる気がしました。



「人」を介して、 島の魅力をどう伝えるか

—— 今回のツアーはどのような内容ですか？

小豆島では移住検討者向けのツアーを10年ほど前からスタートしています。私は2012年に移住しましたが、実は前年にこのツアーに参加をしていて、卒業生なんです。私が着任した2017年以降はその時に感じたことも活かしつつ、新しい視点も入れながら企画を組み立てています。2019年は今の形態

小豆島で特定非営利活動法人Totie（以下、トティエ）の事務局長を務めている大塚さんは、いわゆる「移住者」。島内企業での勤務を経て、元々友人だった前事務局長から現場を引き継ぎ、2017年4月から運営にあたっています。トティエが設立当初から掲げている活動は「移住促進」と「空き家・空き地の活用」ですが、今年5年目を迎えるにあたり、その活動や組織のあり方、そして小豆島・豊島と島外の人との関わり方も節目となっているようです。そんな、大塚さん率いるトティエが企画・運営した移住ツアーに同行させてもらいました。

—— ツアーに参加された方が全員移住するわけではないと思いますが、移住してきた人が島を出ることもあると思います。どういうモチベーションで移住促進の活動に取り組んでいますか？

相談を受けるにつれ、人生を左右する立場であるという責任を感じるようになりました。私たちの活動の

が転入していますので、直接的な効果が高いイベントだと思っています。ただ、参加者によって、転入希望時期も違いますので、一年後と考えている方に具体的な空き家情報を見せてもあまり効果的ではない。という観点で最大公約数的なところを探していくと、結局は島全体の魅力だったり、「人」に行き着きます。まずは島の空気を感じて欲しいと思ってるんですが、言語化しづらい空気感や賑わいは、産産だった人が醸し出しているものだと思いますので、先輩移住者をはじめとした、人との接点を創ることが大事です。出会った先輩移住者がどの方も良い笑顔をしていたら、わざわざ言葉で伝えなくても、その地域が楽しいと感じてもらえます。私自身もツアーに参加した時に出会った方とは、今も家族ぐるみで親交があります。

実績は、転入数で測られる場合もありますが、活動の本質はこの島で充実した暮らしをしてみようという人を増やすためです。ご相談者の人生プランも含めてお話をよく伺い、島暮らしのサポートや寄り添う対応をするようにしています。最近流行りの「関係人口」に対しては、定義や期待効果が曖昧だという意見も耳にします。これに対して私は、「あなた、そして地域はどのように人と繋がりたいのか」という問いだと捉えています。自分に置き換えると、親や島内外の友達と常に会っているわけではないが、心通じる人がいる。分断や誤解が生まれやすい時代において、本来あるべき心のつながりを、この活動でどう表現しているのか、その問いを与えられている気がするんです。移住についても、漠然とした不安よりも島の魅力や可能性が勝って、みなさん転入して来ている。その「魅力」を島民一人ひとりが再認識し、それぞれが任されている分野で行動し磨いていくこと。それが、より良い島の未来を築いていく第一歩であり、私たちの活動の原点でもあります。



PROFILE 大塚 一步さん

1975年東京都三鷹市生まれ。都内にてIT・情報系企業での勤務や友人との輸入業を経て、2012年に4月に夫婦で香川県小豆島に移住。島内企業へ就職後、2017年4月より特定非営利活動法人Totie（トティエ）勤務。2018年12月に第一子が誕生。https://www.totie.org



地域に寄り添い 島に、新たな風を。

「女木島地域おこし協力隊」 藤村佳朋

協力隊になったきっかけは？

私の出身は兵庫県の西宮で、幼少の頃に震災にありました。地元である西宮にずっと住み続けるイメージが湧かず、自分にとっての「ふるさと」を考えたときに一番愛着があった場所が父親の出身地である香川県でした。

大学卒業後は地域おこし企画会社に勤めていたのですが、その時に「地域おこし協力隊」について知りました。学生時代からフリーランスで芸術の仕事をしていたのですが、いきなりフリーランスのみで生活していくというのは正直なかなか厳しいと思います。地域おこし協力隊の制度を活用しながら、自分のやりたい仕事を香川県でできないかと考えるようになりました。そんな時、女木島の募集を見つけ「アートができる人材」とあり、これを見たときに「自分だ！」と直感しましたね。



どんな活動をしていますか？

私の活動は大きく分けて四つの活動に分けられます。

まず一つ目は「地域への協力」です。例えば地域の方からの要望で、お祭りや運動会のテントの設営など。時には島の方の家の雨漏りを直しに行ったり、電灯の取り付けに行ったりだとか（笑）私はこの島の唯一の二十代男性なので、結構いろんなことに駆り出されます。地域のあらゆることに対するお手伝いというのは、とても大切なことだと思っています。

二つ目は「壁画の制作」で、これは「攻めの地域おこし」です。

この壁画は「仕事」として描いているもので、自分が表現したいことを自由に描いているのではなくて、この地域のためになることを考えて描いています。

地域にとって大切なものを描くことで地域の人が喜んでくれる、観光で来たお客さんがつい写真に撮ってSNSにアップしたくなる、そんな壁画になるように、意図的に角度や構図も考えて描いています。壁画を撮影してくださる方は多いので、撮られるのを意識しながらやっています。もちろん、求められたら私も一緒に写りますよ。

私はただ壁画を書いて、完成させ

私は以前から、京都でそういった着ぐるみのイベントの企画運営をやっていたので、そのノウハウを生かし女木島でもイベントを開催しようと思いました。

なぜ島に着ぐるみなのかというと、この女木島には夏場は観光客がたくさん来てくださるんですが、冬場はお客さんがほとんど来ないという課題があります。冬場にお客さんに来てもらって島の経済をちょっとでも潤おそうと考えた時に、着ぐるみイベントを開催することで、観光施設や宿を稼働させ、地域経済を活性化させることが出来るんじゃないかと思いました。しかも、着ぐるみは、夏場は暑すぎて開催できないので、秋冬の寒い季節はぴったりなんです。

2019年12月に



着ぐるみイベントの収益を自治会に寄付した時の様子。寄付は島で暮らす地域猫（島猫）のために使われます。

開催した「第0回 獣ヶ島」は本開催に向けての試験開催でしたので、自分の中ではまだ「終わってない」という感覚があります。ひとつまず試験開催で黒字を出すことができ、少額ながら自治会にも寄付することができました。100点満点ではありませんが

とりあえずは及第点だと思っています。自分としてはまだまだこれからと言った感じです。

以前より、香川県で着ぐるみのイベントを開催する事は私の密かな悲願でしたが、任期1年目で試験開催までたどり着けるとは思いませんでした。私の突拍子もない企画書を快諾頂いた女木島と高松市役所の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。試験開催で得たアイデアをより洗練させて次の第1回に生かしたいです。島の経済に貢献し、島民の方々からも歓迎されるイベントに育てていきたいと考えています。

PROFILE

藤村 佳朋 ふじむら よしとも

芸術大学を卒業後、京都にて地域おこし企画会社、印刷会社を経てフリーランスのイラストレーター・デザイナーへ。父が香川出身のため、香川は子どもの頃からゆかりの深い土地。趣味はキャラクターとロゴのデザイン、イベント企画。

【活動内容】アートを通じた地域振興
移住促進、コミュニティ支援、農園管理
出身地:兵庫県
移住前:京都府
活動地域:高松市(女木島)
活動開始年月:平成30年12月



藤村さんが管理している農園。写真は「キヌサヤ」その他に育てている作物は、「キャベツ」「ジャガイモ」「サラダミックス」「にんにく」「白ネギ」「水菜」「まんば」など。今後、観光客向けに収穫体験や貸し農園を展開していく予定。



自身の手作りの着ぐるみは細部にまでこだわりをもって制作。舌が出せたりと表情に変化がつけられるところがポイント。

おばあちゃんの 大学芋



【材料】3〜4人分
 ・さつまいも…大きめ1〜2個
 ・砂糖…大さじ3
 ・サラダ油…大さじ1
 ・水…いもが浸かる程度
 ・塩…ひとつまみ
 ※シナモン、ごまはお好みで

【作り方】
1 さつまいもを乱切りし鍋に入れる。
2 油、砂糖、塩をひとつまみ入れる。
3 いもが浸かる程度、水を入れる。
4 強火にかけて蓋をする。
5 グツグツしてきたら蓋を外し、強火のまま水分がなくなるまで煮詰める。※煮詰め過ぎない。お好みで、シナモンを少々ふりかけ。
6 器に盛り付けたら、ごまを振りかけて、出来上がり。



鱗をつけたまま炭火で魚を焼きます。こうすると、「網に魚の身がくっつかんやで」と教えてくれました。炭火がおこせない場合は、ガスコンロのグリルで代用可。



雑魚の南蛮漬け



【材料】6〜7人分
 ・白身小魚…10匹
 ※小カレイ、アイナメ、タナゴ、メバルなど
 ・梅干し…大きめ2個
 ・サラダ油(揚げる用)…適量
 【三杯酢】
 ・甘口醤油…1カップ
 ・酢…1カップ
 ・砂糖…1カップ
 ・お酒…2カップ



【作り方】
1 水分をとばす為魚の両面をしっかり焼く。(鱗と内臓もそのまま)
2 魚が浸かるほどの油を入れたフライパンで、素揚げにする。
3 三杯酢の調味料を合わせ、梅干しを入れ、ひと煮立ちさせる。グツグツ煮立たせた中に、素揚げした魚を入れる。
4 落し蓋をして5分ほど煮る。
5 冷めるまで、そのまま漬け込む。



ヒラメのお寿司



【材料】2〜3人分
 ・ヒラメ…1枚
 ・昆布…1枚
 ・塩…適量

【昆布締め】の作り方
1 ヒラメの皮を削ぐ。
2 ヒラメに少し塩を振り1時間ほど置く。(ヒラメの余分な水分をぬぐため)
3 水気をキッチンペーパーでふき取る。
4 昆布を洗い、密閉容器に昆布、ヒラメ、昆布の順に敷き並べる。(昆布で上下ヒラメを挟む)
5 数時間冷蔵庫で寝かせる。その日のうちに食べない場合は酢を入れると日持ちします!



〜応用編〜

・エビ、アナゴでも代用可
 ・カルパッチョにしてもよし、白味噌を加え西京漬けにしてもよし
6 食べやすいように切る。すーっと切り込んで最後の切り離す瞬間だけ包丁を「立てる」感じで切る。



7 小さめの一口大の大きさに、すし飯を握り。ヒラメをのせる。酢を入れたら少し日持ちするが、入れない場合はその日のうちに食べること!

すし飯

【材料】3合分 すし酢
 ・炊いた米…3合
 ・酢…100ml
 ・砂糖…大さじ6
 ・塩…適量

【作り方】
1 すし酢の調味料を混ぜ合わせ、すし酢を作る。**2** 炊きたてのご飯にすし酢を米を切るように混ぜ合わせる。
3 すし飯を広げて、うちわで冷ます。

コトコト、さぬき味



直島に、都会から移住した人たちがふらりと立寄る家がある。そこに行けばサバサバとした、明るく面倒見のいい素敵なお母さんが台所に立ち、手際よく料理した探れた野菜や、島ならではの魚料理が大皿に盛られ、ドドンッとテーブルに並んでいきます。

まるで、おじいちゃん、おばあちゃんの家に戻ってきたかのような、温かいもてなしに魅了された若者たちが、今日も家路につく間際「なんか、食べるもんある〜?」と、玄関を開けて入ってきます。そんな急なお客にも動じないお母さんは、また来たんかと言いなながら、島の料理を振舞ってくれます。

料理の話や聞こうと思つて訪ねたその日も、到着した頃には大抵の段取りを終え、私たちを迎え入れてくれました。「毎日のことだから、面倒臭いことできないでしょ」と、誰もが気軽に作れる料理を教えてくださいました。

長年の間に培われた知識と要領の良さは、私たちを少々驚かせました。使い勝手のいいコンパクトなキッチンに立つと、自然と無駄な動きが省略される仕様に細かく工夫されています。真似したいけど、真似できない。そんな、美味しいものを良く知っていて、人を惹きつけてやまない三田さんに会いに、つい毎日通つてしまふ島の人たちの気持ちがとつても分かる1日となりました。

お料理、
教えて頂きました。



三田 和子さん Kazuko Sanda

ごんぴら出身。直島生まれの旦那さんのところにお嫁に来てから約50年。元直島町婦人会の会長で、地域では気さくで明るく頼もしい存在。生活における知恵が豊富で、それが得意の料理にも反映されている。おもてなしの心遣いは素晴らしい、彼女と話していると伝授してほしい事が溢れ出てくる。



私がオススメです！
土庄町地域おこし協力隊
田山 直樹



からだも心もゆったり
ほぐれる古民家カフェ

「タコのまくら」

小豆島に来てゆっくりしたいなら、絶対に訪れてほしい。島の食材をふんだんに使用したランチは滋味深く、体に沁みわたる美味しさ。デザートも絶品です。目の前に広がる海を眺めながら、のんびりゆったり、贅沢な時間を過ごして下さい。僕が移住をするきっかけにもなった素敵なお店です。



香川県小豆郡小豆島町池田1336 tel.0879-62-9511
11:30~17:00 定休日／火曜日、水曜日、木曜日



香川県三豊市三野町大見3873-1
tel.0875-72-1985 11:00~15:00
定休日／水曜日

うどんとラーメン、
それぞれの良さが
詰まった一杯

「はまんど」

正直、移住前は、香川のラーメンはイマイチだろうと思ってました。そんな疑念を吹き飛ばしたのがこのお店。讃岐うどんの喉越し&いい出汁と、ラーメンの濃厚さの組み合わせにハマリ、気づいたら何度も通うように。定番の「はまんどラーメン」以外に、白湯+キムチのセットもおすすめです。



三豊市地域おこし協力隊
小玉 祥平



私がオススメです！
女木島地域おこし協力隊
藤村 佳朋



海を見ながら、ピザとビールを
楽しめるカフェ

「megino」

瀬戸内海がすぐ目の前にあるゲストハウス&カフェです。美しい海の前で食事、宿泊も両方楽しめます。2019年にオープンしたばかりですが、さまざまなイベントを開催したり地域行事にも積極的に参加されている、これからの女木島をアツクしてくれる期待のお店です。藤村も応援すべく、よく「ジェノベーゼピザ」を食べにいきます！



香川県高松市女木町453番地1-2 11:00~15:00
定休日／木曜日(詳しくは、HPもしくはSNSをご覧ください) megijima.guesthouse@gmail.com



協力隊のオススメ香川歩き



私がオススメです！
土庄町地域おこし協力隊
立屋 一美



豊島の環境に優しい暮らしを体験できる

「Teshima Eco-House & Organic Cafe とのわ」



香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃2495-1
tel.080-8911-8290 12:00~16:00
定休日／日曜日、不定休
<https://www.facebook.com/Teshima-Eco-House-Organic-Cafe-Tonowa->
とのわ-209430193154613/

前任の豊島の協力隊稲子恵さんが切り盛りする、オーガニックカフェ&宿です。豊島の塩、小豆島の醤油やオリーブオイル、手作りの塩麴、甘酒、味噌、地元の新鮮な無農薬野菜などを使った心と身体に優しいごはんなどを提供してくれます。豊島の空気を体感できる宿でもあります。

移住のきっかけになった、昔ながらのお蕎麦屋さん 「はなれ」



塩江にある六代続く老舗旅館「魚虎旅館」の離れにあるお蕎麦屋さん。基本は日中の営業ですが、予約をすれば夜もお蕎麦の他、会席などにも対応していただけます。あったかな家族でお店をされていて、初めて塩江に来た時、息子さんが上手に天ぷらを揚げてくれたのが印象的でした。温泉に入って気持ちも身体もほっこりしたいときはここ！おすすめは蕎麦湯も楽しめる「湯だめ蕎麦」。



香川県高松市塩江町安原上東444-2 tel.087-893-0121 (魚虎旅館)
11:30~14:00、夜(要予約) 定休日／月曜日(祝日の場合翌日)



私がオススメです！
塩江町地域おこし協力隊
相曾 晴香



私がオススメです！
普通寺市地域おこし協力隊
中川 裕太



こだわりの料理とお酒を
ゆったり愉しめるお店

「くつろぎバル ALICE」

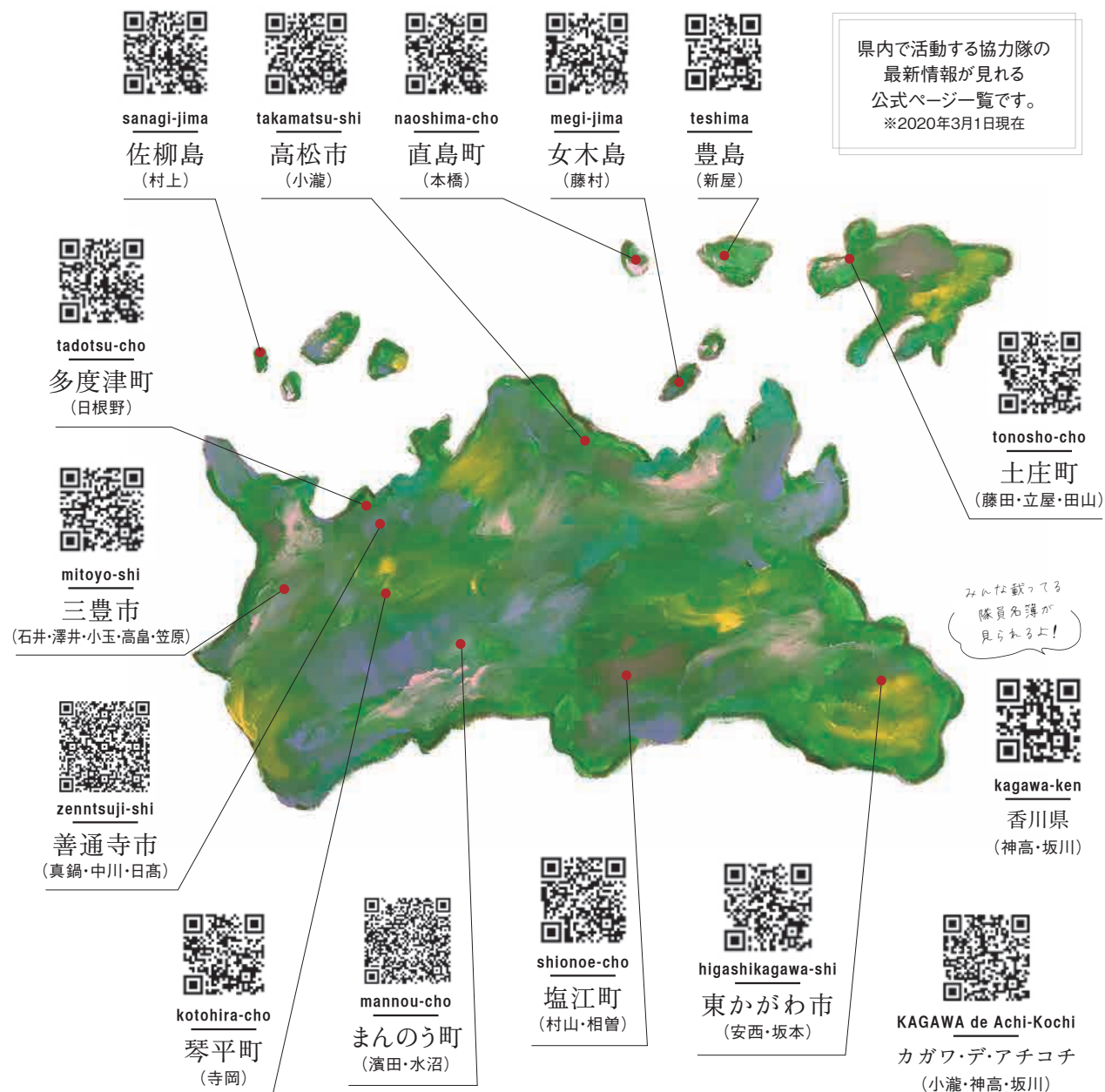


香川の旬な食材を使ったさぬきの食提供店。商工会議所青年部の元会長であるオーナーシェフは、実は普通寺市で祖父の代から続く料理一家の三代目。代々受け継がれたドライカレーは野菜の甘みが口の中でとろけるように広がり、スパイスの香りが鼻腔をくすぐります。日ごとにめくるめく変貌するおしゃれなメニューは、まるで不思議の国に迷い込んだよう。

香川県普通寺市上吉田町3丁目4-7
tel.0877-62-1639
11:00~14:00(平日のみ)
18:00~23:00(不定休)

kATSUDOU-MAP

地域おこし協力隊の活動場所



あとがき

新旧協力隊が入れ替わっていく中で、互いに影響し合い、誰かの頑張りや誰かに勇気を与えたり、そんな繋がりを「さぬきの輪」の活動で作っていったらと想いながら活動をしています。できる限り、得意なことを生かした活動を支えるきっかけ作りにもなるように、さぬきの輪TIMESも成長していけたらと思います。今回も、ご協力いただいた皆様。ありがとうございました。

香川県の絵・裏表紙の絵…本橋英里

さぬきの輪の活動

香川県では、協力隊同士や行政担当者、OB・OGとのネットワーク形成のため、活動報告会や研修企画、交流会を通じて学びの場を共有しています。



行政予算を学ぶ

さぬきの輪の そろばん教室

「予算っていつ決まるの?」「活動費ってどんなことに使えるの?」「行政予算って分かりにくい」そんな地域おこし協力隊の声にお応えして、年に1度協力隊の予算について皆で考える「さぬきの輪のそろばん教室」を開催しています。

活動地域から学ぶ

さぬきの輪の集い

活動地域の枠を超えて、月に1度のペースで活動場所の視察を行う「さぬきの輪の集い」。現役隊員の活動場所を訪ね、活動内容や意見交換を実施。行政担当者も参加し様々な活動をヒントに互いに共有しあいます。



先輩から学ぶ

さぬきの輪の OB・OG会

徐々に香川県でも増えてきたOB・OG。任期後も今まで築いてきたネットワークを活かせるよう、交流会を通じて新旧協力隊の輪を広げます。頼りになる先輩方と、卒業後も会える貴重な機会です。



さぬきの輪

募集情報も掲載!!
協力隊に興味のある方は
チェック!

地域おこし協力隊
ポータルサイト

香川の地域おこし協力隊情報はコチラ



かがわ移住ポータルサイト
かがわ暮らしあわせ



ローカルライフを
始めたい!

香川に移住をお考えの皆さまに



移住フェア
などの情報を
GET!

直島女文楽

直島の女文楽とは、島に伝わる全国的にも珍しい女性だけによる伝統的な人形劇。香川県の有形民俗文化財・無形民俗文化財に指定されています。

江戸時代、天領地だった直島は芸どころで知られていました。島内には、回り舞台やセリ付きの本格的な舞台が造られ、近隣の島々から観衆が集まり、島の有志による公演が続いていました。一座は自らの着物をほどこき人形衣装をしつらえるなど、地道な活動が続けていましたが、明治・大正・昭和初期の間、文楽が一度途絶えてしまいました。昭和23年農業と漁業が中心だった島文化を細々と守ってきた女性達の手で再興されました。昭和24年には直島町敬老会において初公演をおこない、女性だけで作り上げる文楽の誕生となりました。

2010年から瀬戸内国際芸術祭でも上演。地元的女性たちの努力によって伝統は受け継がれ、人形に命が吹き込まれています。



さぬきの輪 TIMES 9

2020年3月発行

発行：香川県地域おこし協力隊
お問い合わせ先：香川県政策部地域活力推進課

〒760-8570 香川県高松市番町4丁目1番10号
TEL: 087-832-3105 FAX: 087-831-1165 MAIL: chiiki@pref.kagawa.lg.jp